



報道機関 各位

黄金に輝く、幻の「柳久保小麦」が収穫時期に入ります



東久留米市は野菜や果物、花など、市の面積の約12%を占める農地があり、都市農業が盛んな街です。そして、「柳久保小麦」(江戸東京野菜参考登録)という珍しい品種の小麦が栽培されており、6月初旬から下旬にかけて、収穫時期に入ります。

柳久保小麦は江戸時代1851年に、現在の東久留米市柳窪の住人であった奥住又右衛門(またえもん)が旅先から持ち帰り、栽培が始まったと言われています。この小麦から取れる粉は、粘りが強く、香りや風味に優れているため、うどん用として大変評判となり、東京各地や近隣の県でも栽培されたそうです。

一般の小麦の草丈は75cmほどですが、柳久保小麦は130cmほどに成長します。「草丈が高い」という特徴から、倒れやすく、量産が難しいため、戦時中の食糧増産の中で姿を消し、「幻の小麦」となってしまいました。その後、又右衛門のご子孫が、農林水産省生物資源研究所で保存されていたわずかな種を譲り受け、見事復活を果たしました。現在、市内の農業者(「柳久保小麦の会」など)のみが栽培し、うどん、ラーメン、かりんとう、まんじゅう、パンなど、さまざまな特産品の原料となっています。

6月初旬から下旬にかけて、収穫時期に入ります。黄金に輝く「柳久保小麦」の様子(5月中旬から6月初旬)や収穫風景を見に、ぜひお越しください。

なお、柳久保小麦が栽培されている農地は、特産品マップ「東久留米大好きっ！」の「裏面」に小麦マークで示しています。(市ホームページから取得できます)

http://www.city.higashikurume.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/000/093/ura.pdf

東久留米だいすきっ!

検索

■問い合わせ先 (麦畑の位置や収穫日をご案内します)

産業政策課長 島崎 (担当: 森本・武井) 電話042・470・7743

東久留米市企画経営室秘書広報課 齊藤
Tel042-470-7712 Fax042-470-7804
E-mail: hishokoho@city.higashikurume.lg.jp

湧水の妖精
るるめちゃん

東久留米市地域資源PRキャラクター

